

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」 第3回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和5年4月19日（水）14：00～

場所：ハーネル仙台 4F「青葉」

次 第

1. 開会

2. 議事

- 1) 前回の議事録
- 2) ツアールート設定の考え方
- 3) モデルツアールートについて
- 4) モニターツアーの募集
- 5) 今後のスケジュール
- 6) その他
 - (1) 三陸沿岸道路の整備効果
 - (2) その他

3. 閉会

資料－1：規約と名簿

資料－2：前回議事録

資料－3：ツアールート設定の考え方

資料－4：モデルツアールート

資料－5：モニターツアーの募集

資料－6：今後のスケジュール

参考資料－1：ツアールートの設定区間と地域の概況

参考資料－2：モデルツアールートマップ

参考資料－3：三陸沿岸道路の整備効果

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」
三陸沿岸道路エリア活性化検討会 規約（案）

令和 4 年 7 月 13 日

（名称）

第 1 条 この検討会は、三陸沿岸道路エリア活性化検討会(以下「検討会」という。)という。

（目的）

第 2 条 検討会は、三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来指向の地域活性化を図るため、観光コンテンツと周遊プログラムを踏まえたツアールートとともに、三陸沿岸道路の利用促進の検討を行うことを目的とする。

（委員）

第 3 条 検討会の委員は、別紙のとおりとする。

（座長）

第 4 条 検討会に座長を置く。

2 座長は、委員の確認によってこれを定める。

3 座長は、検討会の議長となり、議事の進行に当たる。

4 座長に事故があるときは、委員のうちから座長が指名する者が、その職務を代理する。

（委員以外の者の出席）

第 5 条 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に対し、検討会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

（会議）

第 6 条 検討会は、原則公開とする。

2 検討会の資料及び議事については、公開とする。ただし、座長が必要と認めるときは、その一部を非公開とすることができる。

（雑則）

第 7 条 この規定に定めるもののほか、検討会の運営に関して必要な事項は、座長が別途定める。

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」
三陸沿岸道路エリア活性化検討会 名簿

	氏名	役職	所属
1	阿部 憲子	女将	南三陸ホテル観洋
2	阿部 寿一	専務理事	(一財) VISIT はちのへ
3	石井 扶佐子	業務執行理事 駅長	(一社) 思惟の風 道の駅たのはた
4	伊藤 加奈	道路計画第二課長	東北地方整備局道路部
5	今里 直樹	編集局次長兼コンテンツセンター長	河北新報社
6	太田代 剛	編集局次長兼論説委員会委員	岩手日報社
7	奥村 誠 (座長)	教授	東北大学災害科学国際研究所
8	北島 太郎	総括課長	岩手県復興防災部 復興推進課
9	紺野 純一	理事長	(一社) 東北観光推進機構
10	澤里 秀典	課長	青森県県土整備部 都市計画課
11	澤田 彰弘	副館長兼総務課長	東日本大震災津波伝承館
12	中村 浩彰	支部長	(一社) 日本旅行業協会 東北支部
13	樋口 保	課長	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課
14	平澤 光昭	専務執行役員	岩手県北自動車株式会社
15	脇田 淳	営業部長	宮城交通株式会社

五十音順・敬称略

着色した委員は令和5年4月1日異動に伴う変更

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」 第2回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和4年12月2日（金）14時00分～
会場： マリオス 18階 第187会議室

意見交換内容

1)前回の議事録確認

2)主な意見と今後の対応案

●河北新報社 安野委員

- ・方針について、モデルルートを作って終わりではないというのは了承した。
- ・対応案として具体的なアウトプット(目指すところ)が見えず、わかりづらい。

●奥村座長

- ・結局何をするのか？

●事務局

- ・前回まではツアールート of 提案であった。
- ・今後は具体的なテーマを示す必要があると考えている。周遊することで得られる価値・魅力を今までに無いような切り口で提案していきたい。

●奥村座長

- ・テーマが先あって、テーマに沿った施設を色分けするというやり方。
- ・これは研究を通して感じたことだが、仕組まれた観光で満足させるのも良いが、体験時に感じたこと、得た感覚を大事にしてもらうことが必要。
- ・体験する前に洗ざらい情報を提示してそれら全て提供し、満足して帰ってもらおうというのがこれまでの方向性。それだとリピーターに繋がらない。
- ・ある場所で体験したことを、別の場所で違う角度から体験してもらうことで次へと繋がる。
(例えば水産物の加工場の見学→そこで取れた水産物を使った料理が楽しめる場所→漁に使用する道具の製造場所といった流れ)
- ・この様に全て情報をはじめから提示せず、情報自体はそこに行けばわかるようにしておき、繋がりを高めるやり方もあり。

●岩手県北自動車(株) 平澤委員

- ・座長の考えも1つだと思う。
- ・弊社は復興ツーリズムに取り組んでおり、「こうしてほしい」「こうしよう」ではなく、「こうでした」と実際にやってきたことを提供している。
- ・教育旅行に的を絞って何を学びたいかを提示してはどうか。
- ・目的・テーマをはっきりさせ、そのための学びの場所や効果等を可視化し、提供していくと良い。

●(一社)東北観光推進機構 紺野委員 代理：澤田氏

- ・経験上リピーターになってもらうのは難しい。1人がリピーター化するよりも、複数の人に来てもらった方が口コミの効果は高い。まずは知ってもらうことが重要。
- ・語り部は教育旅行で現在でも需要がある。教育旅行で一度訪れたが、大人になってもう一度来てみよう、家族と一緒に試してみよう等、結果的にリピーターに繋がっていく。
- ・事前に教育旅行にどのような効果があるのかを先生・親に説明し、理解してもらう。事前情報は重要。営業時間等のベーシックな情報も必要。
- ・ルートはプロ(旅行会社等)にまかせ、コンテンツの発掘に力を入れてはどうか。

●三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・観光客は当時のことを聞いても良いのか戸惑うようだ。
- ・語り部の取り組みは地域を前進させたり、気持ちを前向きするために重要。
- ・「言いにくい」は「聞きにくい」に繋がる。伝承ロードやマップができてありがたいと思っている。
- ・この検討会は、点でしかなかった各自の取り組みが繋がりに面となる役割を担っている。
- ・震災遺構があることで語り部も語りやすくなる。メッセージ性のある震災遺構は残すべきと考える。
- ・修学旅行はコロナ禍でも続いていた。子供が学んだことは大人にも影響を与え、集客へと繋がる。コロナ禍で海外旅行者や大都市への旅行者が東北へ目を向けるようになったが、収束後も来ていただけるように震災学習の重要性を継続的にアピールしていけたらと思う。

●岩手県復興防災部復興推進課 澤田委員 代理:米澤氏

- ・今後の対応案に関して、ツアールートの提案から考え方へと変更するとのことだが、アウトプットの先のアウトカムとしてその先に何があるのか。
- ・前はアウトプットとしてモデルルートを示し、アウトカムとして民間事業者によるツアー販売等を目指すとのことだったと理解している。
- ・アウトプットを考え方へと変更した際、その先のアウトカムはどうなるのかお聞きしたい。

●事務局

- ・考え方を示したとしても、ある程度のモデル的なコースを示す必要がある。
- ・どういった考え方でどんな価値があるか示したいが、現段階ではまだ具体的なことは決まっていない。
- ・価値や考え方を旅行業者に汲み取ってもらい、独自のコースを設定してもらえたらと思っている。
- ・検討を重ねた上でモデルルートは示していきたい。

●岩手県復興防災部復興推進課 澤田委員 代理:米澤氏

- ・行政の立場から申し上げますと、財団法人だからこそできることがある。行政ではできないアウトプットを是非お願いしたい。

●東北地方整備局道路部 伊藤委員

- ・今回アウトプットが変わることで、当初(第1回)から検討の流れを大きく変えるのか教えていただきたい。

●事務局

- ・検討の流れを変えるつもりはない。当初の流れ通りモデルルートは示す必要がある。
- ・我々が示した考え方がコース上にあるかをモニターツアー等で確認してもらい、それがなかった場合は改善していく様な流れで考えている。

●奥村座長

- ・「1度では理解できない。次は誰に話を聞けばもっと理解が深まるか」みたいなものがテーマに感じる。
- ・「今回はこの人の話を聞いて考えてみよう、次来たときは同じ様な体験をしたが違う意見を持った人に聞いてみよう」といった様なことを重ねて行くことで、地域を多面的に理解してもらうことへの手掛かりになると思う。
- ・伝承ロード推進機構でやることなのかはまだ議論できていないため、一度持ち帰り、今後検討していきたい。

●河北新報社 安野委員

- ・今の座長のお話を踏まえると探求型のモデルルートとなるのかなと思う。
- ・モデルルートだけではなくモデルパターンを示せると面白いのでは。

●奥村座長

- ・やはりテーマ先行で行かなくてはならないと思う。
- ・教育旅行については、何を学ぶのか、学べるのかを示す必要がある。
- ・個人旅行に関しては、これからの時代、旅行者からの2次的情報(口コミ等)が重要となってくる。単なる表面的な口コミではなく、感想も含めてこんなことが学べた、面白かった、こんな話が聞けたといった情報を集めていける場所があってもいい。
- ・みなさんの意見を聞いて、テーマをしっかりと整理していくことが不可欠だと感じた。

3)自治体ヒアリング結果

●奥村座長

- ・三沿道の開通により、オートキャンプ場利用者、道の駅の車中泊等が増えるのは理解できるが、地元の方との交流が希薄になってしまうのが残念。例えばそういった集客が見込める場所に地元の食材を提供したり、季節の楽しみ方を教えたり等、地域とどう結び付けていくのが課題。
- ・時間が読めるようになったことで日帰り客が増えている。朝にしか体験できないようなものが沢山あるので(特に港町)、泊り客を増やすために朝の価値を高めてはどうか。

●三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・震災により多くのものを失った地域なので、そこをどう活かすかを意識している。
- ・夜は星がよく見えるようになったため「スターパーティー」を開催している。
- ・伝承施設にも登録されている「海の見える命の森」では体験学習を開催し、自然との関り(海と森との関係性)を体験してもらっている。
- ・伝承には必ずしもきちんと整った施設が必要というわけではない。
- ・南三陸の朝活としては、絶滅危惧種のコクガンを見ることができる場所がある。
- ・まだまだ伝えきれていないものもあるので、こういった検討会や取り組みを通じて新たなスポットをピックアップし、集客につなげていきたい。

●(一財)VISIT はちのへ 阿部委員

- ・八戸は朝市が有名。特に日曜に開催している館鼻岸壁朝市には毎週2万人ほどの観光客が訪れ、そのほとんどが現地に宿泊している。八戸はビジネス客が多いが、土曜日でもホテルの稼働率が高い。

- ・朝市のほかにも、魚菜小売市場魚の「朝ごはん」や、漁師鍋を食べる体験等も行っている。地元の方と観光客との交流が重要と考えている。
- ・自治体ヒアリング結果にもあったが、交流人口を増やすため、様々な団体と連携し、三陸を活性化する取り組みを行っている。

類型	ルートの設定の考え方	手法	例	期待される効果	課題	整理
目的型	目的やテーマを設定	<p><u>step1:テーマを設定</u> 例：①-1震災の事実 ①-2震災の復旧と復興 ②三陸の観光と歴史 ③三陸の食と文化 <u>step2:テーマに関連する資源をピックアップ</u> 例：①-1震災の事実⇒震災遺構、震災伝承施設等 <u>step3:資源をネットワークするルートを設定</u></p>	<p>①-1震災の事実：津波の特性や被災の現状、具体的な避難行動 ①-2震災の復旧と復興：復旧計画、復旧の実際、インフラの復旧など、 ②三陸の観光と歴史：登米明治村や気仙沼内湾、碁石海岸、浄土ヶ浜などを周遊 ③三陸の食と文化：さんさん商店街、鹿折金山資料館、鉄の歴史資料館、鯨と海の科学館など周遊</p>	<p>・テーマに即した、地域の理解度向上</p>	<p>・震災関係は既存の観光施設との差別化が、コアな部分になると需要が課題。 ・観光や食等では、既存エージェントとの差別化が問題。</p>	
探求型	探求課題を設定	<p><u>step1:探求する課題を設定</u> 例：①被災の実情 ②復旧のあり方 ③復興の現状 <u>step2:課題に関連する資源である震災伝承施設、語り部団体、見学可能施設をピックアップ</u> 例：①被災の実情：震災経験者、漁師・工場関係者（漁場被災、工場被災）、行政防災関係等 <u>step3:設定した課題を解消できる資源（語り部）に会える場所・曜日・時間の情報提供</u></p>	<p>「被災の実情」を課題として設定し、具体的に探求する内容に関連する資源を提供。 旅による課題の解消による満足度を高める。</p>	<p>・ツアー満足度の向上と、レピーターの確保</p>	<p>・魅力的なコンテンツと、情報提供者の確保 ・資源が震災関連に偏る恐れがある</p>	<p>目的・テーマを設定したルートを示しつつ、探求型や連鎖型の視点を入れながらルートを設定する。</p>
連鎖型	地域の新たな資源を提示	<p><u>step1:個別テーマを設定（新たな地域資源など）</u> 例：養殖漁業の缶詰工場見学を設定 <u>step2:新たな地域資源から連鎖する資源の紹介</u> 例：缶詰工場⇒近隣の養殖漁業の体験収穫、その缶詰活用の調理方法、活用する飲食店の料理、販売先 <u>step3:連鎖する関連資源の情報提供、回遊ルート設定（又は、道路ネットワークのみ情報提供）</u></p>	<p>「水産物の加工場の見学」を起点として 1) 「そこで取れた水産物使った料理が楽しめる場所」 2) 「養殖漁場の現場」→「収穫体験」→「加工品販売所」 といった体験の連鎖を提供する</p>	<p>・地域の魅力発信 ・来訪者がルート設定することにより、地域理解（どのような資源がどこにあるかを理解）が向上</p>	<p>・連鎖を促す「体験」の種類と数の確保 ・情報提供者の確保</p>	

4. モデルツアールートについて

1) エリアの区分（参考資料－１参照）

モデルツアールートの対象となる三陸地域は、南北方向に細長い三陸沿岸道路でさえ 359km もあり、その沿道エリアも広域である。また、地域毎に被災状況や観光特性も異なることから、対象エリアを３つ（①宮城県（仙台～気仙沼）、②岩手県沿岸南部（陸前高田～宮古）、③岩手県北部と青森県（宮古～八戸））に区分してモデルツアールートを考える。

また、モデルツアールートの行程は１泊２日の行程とする。移動はバスを基本とするが、観光特性に応じて鉄道なども考慮する。

2) モデルツアールート（参考資料－２参照）

① 宮城県（仙台～気仙沼）ルート 移動はバスを基本

テーマ；産業復興と賑わいの創出

仙台駅発＝ 野蒜ヶ丘団地 ＝ 石巻南浜震災復興祈念公園
 ＝女川シーパルピア ＝ 宿泊（南三陸町 or 気仙沼）
 ＝宿泊 ＝ 道の駅「南三陸」 ＝ 気仙沼市震災復興伝承館
 ＝ 気仙沼内湾地区 ＝ 缶詰工場見学 ＝ 道の駅「川崎」
 ＝ 一ノ関駅着

【1日目】

時間	行程	コンテンツ概要
9:00	JR 仙台駅（東口）	
	移動（60分）	
10:00～ 11:00	【野蒜ヶ丘団地】《復興》	大規模な切土による高台集団移転地となった野蒜ヶ丘団地。JR 仙石線の移設や環境との調和などを実施した区画整理事業
	移動（20分）	
11:20～ 12:40	【石巻南浜震災記念公園（みやぎ東日本大震災津波伝承館含む）】 《慰霊・伝承》	震災の追悼と鎮魂、復興の象徴とした「復興祈念公園」と宮城県の津波伝承館がある。
	移動（10分）	
12:50～ 13:50	【いしのまき元気いちば】《昼食》	賑わいを創出した旧北上川の堤防整備と一体的に整備した観光交流拠点施設。（食事と物販施設）

	移動 (30 分)	
14:20 ~ 15:20	【女川町シーバルピア】《復興》	大規模嵩上げ盛土を行い、防潮堤のない景観を創出した賑わい拠点。女川駅前広場から港に一直線に伸びるレンガみちの両側を中心に観光物産拠点施設がある。
	移動 (90 分)	
16:50	【宿泊：気仙沼市 or 南三陸町】	

【2日目】

時間	行程	コンテンツ概要
9:00	【南三陸：宿泊施設出発】	
	移動 (10 分)	
9:10 ~ 10:10	【道の駅「さんさん南三陸」《買物・伝承》	建築家「隈研吾氏」監修のもと設計された施設。物販施設と R4 年 10 月に開館した震災伝承施設「南三陸メモリアル」が特徴。
	移動 (30 分)	
10:40 ~ 11:40	【気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館】《伝承》	気仙沼向洋高校旧校舎を震災遺構として活用した気仙沼市の震災伝承施設。被災直後の映像や被災した市民の活動を伝える。
	移動 (20 分)	
12:00 ~ 13:00	【気仙沼内湾地区】《昼食・観光・買物》	甚大な被害を受けた内湾地区。「気仙沼の顔」であった内湾地区のにぎわい再生を図るための拠点となる商業施設エリア。
	移動 (10 分)	
13:10 ~ 14:10	【缶詰工場（ミヤカン）】《復興》	壊滅的な被害を受け、震災から 4 年後に新たに水産加工の集積地として整備された鹿折地区の復旧事業第一号として再開した缶詰工場。工場見学が可能
	移動 (50 分)	
15:00 ~ 15:30	【道の駅「かわさき」】《休憩》	岩手県の国道 284 号線沿い、北上川近くの北上大橋のたもとにある道の駅。地元のお母さんたち自慢の無添加加工食品が有名。
	移動 (20 分)	
15:50	JR 一ノ関駅到着・解散	

② 岩手県沿岸南部（陸前高田～宮古）

テーマ：三陸リアス式海岸と震災の教訓を知る

起点：一関駅 = 道の駅「むろね」 = いわて津波メモリアル
 = 碓石海岸 = （三陸鉄道：盛駅～釜石駅）
 = いのちをつなぐ未来館 = 宿泊（釜石 or 大槌）
 = 鶴住居川水門見学 = 大槌町文化交流センター「おしやち」
 = 浄土ヶ浜 = 道の駅「やまびこ館」 = 盛岡駅（終点）

【1 日目】

時間	行程	コンテンツ概要
9:00	JR 一ノ関駅出発	
	移動（50分）	
9:50～ 10:20	【道の駅「むろね」】《休憩》	岩手県の国道 284 号線沿い、特徴は道の駅で販売を占める農作物の 7 割は全て地元室根産のもの。
	移動（40分）	
11:00～ 12:30	【いわて津波メモリアル（高田松原復興祈念公園含む）】《伝承・慰霊》	震災の事実と教訓を次世代に継承していくための拠点施設。高田松原津波復興祈念公園内で、国営追悼施設と道の駅「高田松原」と一体的に整備された伝承館。
	移動（30分）	
13:00～ 14:00	【三陸鉄道：盛駅（13:00 発）～釜石駅（13:51 着）】《弁当・観光》	風光明媚な三陸リアス式海岸を満喫できる車窓景観を堪能しながら走る列車。
	移動（20分）	
14:20～ 15:20	【いのちをつなぐ未来館】《伝承》	鶴住居小と釜石東中の生徒全員が助かった物語（釜石の奇跡）を中心に伝える釜石市震災伝承施設。
	移動（5分）	
15:25～ 15:55	【釜石鶴住居復興スタジアム】《復興》	2019 ラグビーワールドカップの会場になった鶴住居小学校と釜石東中学校の跡地に整備されたスタジアム。
	移動（20分）	
16:15	【宿泊：釜石市内】	

【2日目】

時 間	行 程	コンテンツ概要
9:00	宿泊施設出発	
	移動 (20 分)	
9:20 ~ 10:20	【鶴住居川水門】《防災》	高さ 14.5m、全長 236m にもなる巨大水門。津波を受け止める 5 つのカーテンウォールとゲートで構成されている。
	移動 (10 分)	
10:30 ~ 11:30	【大槌町文化交流センター「おしやっち」】《伝承》	被災前の大槌町の町並みを再現したジオラマや震災からの復興の過程などをパネル展示している町の震災伝承施設。
	移動 (50 分)	
12:20 ~ 13:20	【浄土ヶ浜】《昼食・観光》	三陸復興国立公園・三陸ジオパークの中心に位置。三陸沿岸を代表する景勝地。
	移動 (50 分)	
14:10 ~ 14:40	【道の駅「やまびこ館」】《休憩》	岩手県の国道 106 号線沿い、駅名の由来は、「こだま」が返ってくる山間のロケーションから命名。
	移動 (50 分)	
15:30	JR 盛岡駅到着・解散	

③ 岩手県北部と青森県（宮古～八戸）

テーマ：自然が織りなす景観と津波の被害の実相

起点：八戸駅 = 八戸市みなと体験学習館 = 種差海岸
 = 道の駅「いわて北三陸」 = 小袖海岸 = 普代水門
 = 宿泊
 = 岩泉龍泉洞 = たろう「学ぶ防災」 = 浄土ヶ浜
 = 道の駅「やまびこ館」 = 盛岡駅（終点）

【1日目】

時間	行程	コンテンツ概要
9:00	JR 八戸駅出発	
	移動（30分）	
9:30 ~ 10:30	【八戸市みなと体験学習館】 《伝承》	八戸港を見下ろす館鼻公園内（旧八戸測候所跡）にある。市の歴史・文化と東日本大震災を伝える震災伝承施設。
	移動（20分）	
10:50 ~ 11:10	【種差海岸】《観光》	天然芝生が一面に広がる美しい海岸。国の名勝地に指定され、多種多様な自生する植物を観賞できる。
	移動（40分）	
11:50 ~ 12:50	【道の駅「いわて北三陸」】《昼食》	久慈広域のゲートウェイとして久慈北ICに隣接して整備。久慈市、洋野町、野田村、普代村の情報や魅力を発信。
	移動（20分）	
13:10 ~ 14:00	【小袖海岸】《観光》	NHK朝ドラ「あまちゃん」で有名な「北限の海女」の素潜り漁の実演が見学できる。
	移動（40分）	
14:40 ~ 15:40	【普代水門】《防災》	高さ 15.5m、全長 205mの東北一と称される水門が被害を抑え、犠牲者がなく「奇跡の水門」と呼ばれている。
	移動（5分）	
15:45 ~ 16:15	【太田名部防潮堤】《防災》	高さ 15.5m、全長 155m の防潮堤。普代水門と合わせ住宅地や集落中心部への津波到達を防いだ。
	移動（30分）	
16:45	【宿泊：田野畑村】	

【2日目】

時 間	行 程	コンテンツ概要
9:00	宿泊施設出発	
	移動 (40分)	
9:40 ~ 10:40	【龍泉洞】《観光》	日本三大鍾乳洞の一つ。洞内に棲むコウモリと共に国の天然記念物に指定。洞内総延長は知られている所で4,088m、うち700mが公開中。
	移動 (40分)	
11:20 ~ 12:20	【たろう「学ぶ防災」】《防災・伝承》	宮古市の田老地区の現状や被災時の状況を防潮堤に上って災禍の記録と後世への教訓を伝える。
	移動 (20分)	
12:40 ~ 13:40	【浄土ヶ浜】《昼食・観光》	三陸復興国立公園・三陸ジオパークの中心に位置。三陸沿岸代表の景勝地。
	移動 (50分)	
14:30 ~ 15:00	【道の駅「やまびこ館」】《休憩》	岩手県の国道106号線沿い、駅名の由来は、「こだま」が返ってくる山間のロケーションから命名。
	移動 (50分)	
15:50	JR盛岡駅到着・解散	

4) モニターツアーの募集について

モデルツアーのモニターについては、一般旅行者と特定顧客（学校防災教育関係者、企業・団体の社員研修や防災研修担当者、BCP 関係者）を対象に実施する。

	対象	概要
(1)	一般旅行者	一般消費者の視点から提案したモデルコースにあるコンテンツの評価を行い、ツアーの価値を確認する。
(2)	特定顧客	<p>特定顧客向けとして学校の防災教育関係者、企業・団体の社員研修や防災研修関係者、BCP関係者といった防災に関連性の高い利用者を対象としたモニターツアーを行い、教育と観光の双方からコンテンツの評価を行い、モデルコースの価値を確認する。</p> <p>今回は、海外の教育関係者を招請し、インバウンドの視点からコンテンツの評価を行う。</p>

【一般旅行者向けモニターツアーの募集内容】

- ① 募集人数 各コース 10 名程度（男女、年齢のバラツキを考慮）
- ② 費用 1 万円程度個人負担を予定
- ③ コース 3 つのモデルコース
- ④ 実施時期 7～8 月中目途
- ⑤ 募集方法 プレスリリース（1 ヶ月前）による公募
- ⑥ その他 ツアーの実施にあたってはプレスリリースを予定

【特定顧客向けモニターツアーの募集内容】

- ① 募集人数 10 名程度（台湾の海外交流が熱心な高校の先生）
人選にあたっては昨年訪問した 5 つの高校を中心に
東北観光推進機構に依頼予定
- ② 費用 負担なし
- ③ コース コンテンツの紹介を中心に 3 泊 4 日の行程
- ④ 実施時期 8～9 月中目途
- ⑤ その他 ツアーの実施にあたってはプレスリリースを予定

【モニターツアーのポイント】

- ① コンテンツを体感（見る、聞く、触るなど）し、コンテンツ内容の理解促進
- ② 震災遺構や伝承施設と観光が融合したハイブリッドなプログラムの確認
- ③ 施設関係者の了解のもと普段のツアーでは見られない特別な施設見学（工場等の生産現場、巨大な復興インフラの内部等）
- ④ 三陸沿岸道路の活用による移動の効率性や快適性を実感
- ⑤ コロナウィルス水際対策が緩和され、仙台と台湾の直行便が週 17 便と強化されたことから、そのアクセス性の向上についても理解促進。

今後のスケジュール

令和4年7月13日 第1回検討会
(規約、地域現況 他)

同 12月2日 第2回検討会
(三陸沿岸自治体関係者 意見交換結果 他)

令和5年4月19日 第3回検討会
(ツアールート、モニターツアー募集 他)

同 8月下旬 第4回検討会
(ニーズ調査、モニターツアー結果 他)

同 11月中旬 第5回検討会
(ニーズ調査結果 活性化フォーラム 他)

モデルツアールートの区間と地域の概況



モデルツアールート① 宮城県 (仙台～気仙沼)

モデルツアールート② 岩手県沿岸南部 (陸前高田～宮古)

モデルツアールート③ 岩手県北部と青森県 (宮古～八戸)

- 市町村役場
- 主要観光施設
- ◇ モデルツアー拠点候補地
- 道の駅

テーマ	産業復興と賑わいの創出										三陸リアス式海岸と震災の教訓を知る					自然が織りなす景観と津波防災を学ぶ										
市町村	仙台市	多賀城市	七ヶ浜町	塩竈市	利府町	松島町	東松島市	石巻市	女川町	登米市	南三陸町	気仙沼市	陸前高田市	大船渡市	釜石市	大槌町	山田町	宮古市	岩泉町	田野畑村	普代村	野田村	久慈市	洋野町	階上町	八戸市
三沿道IC箇所	1	1	-	-	3	2	3	5	-	3	4	10	3	5	5	1	3	5	2	4	2	1	6	3	2	2
主要観光施設※	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	-	1	3	-	1	1	1	2	2	2	4	1	1	1
震災伝承施設(第三分類)	4	-	-	1	-	1	1	8	-	-	3	4	5	2	2	1	1	5	-	4	-	-	1	-	-	1
震災伝承施設(第二分類)	8	2	1	1	-	1	-	6	3	-	1	3	5	10	4	-	1	1	2	-	3	4	1	-	-	3
震災伝承施設(第一分類)	10	-	-	-	-	4	7	24	-	7	-	9	19	13	28	9	3	4	3	1	2	-	8	1	1	4
道の駅	-	-	-	-	-	-	-	2	1	5	1	1	1	1	1	-	1	4	2	1	1	1	3	1	1	1
備考																										

※主要観光施設：岩手県は自治体観光協会、自治体統計書等に掲載の主要観光地点等を参考に、沿岸部の市町村に立地するものを抽出。青森県、宮城県は各市町村の観光地で入込客数が最も多いものを抽出。

モデルツアールート① 宮城県 (仙台～気仙沼) ※南三陸町宿泊

テーマ：産業復興と賑わいの創出



モデルツアールート② 岩手県沿岸南部（陸前高田～宮古） テーマ：三陸リアス式海岸と震災の教訓を知る



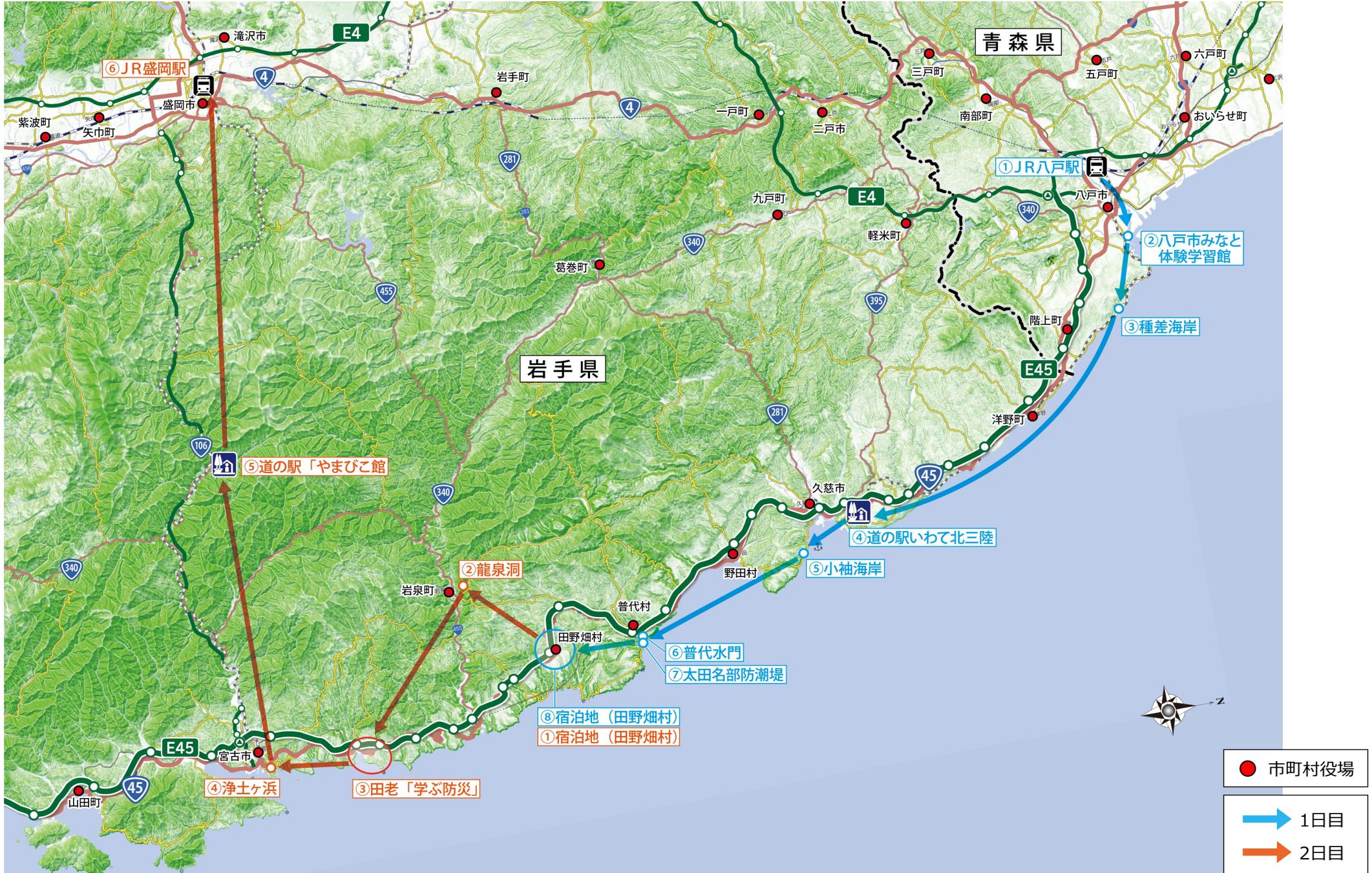
● 市町村役場

→ 1日目

→ 2日目

モデルツアールート③ 岩手県北部と青森県 (宮古～八戸)

テーマ：自然が織りなす景観と津波防災を学ぶ



令和 4 年 1 2 月 9 日
 国 土 交 通 省
 東 北 地 方 整 備 局

災害に強く、新たなまちを支える復興道路・復興支援道路 ～ 全線開通から1年 地域産業や企業活動、観光を応援 ～

復興道路・復興支援道路(以下、復興道路等)は、復興のリーディングプロジェクトとして震災後10年で全線開通させることを目標に始動し、一刻も早い復旧・復興を目指し、災害に強く、新たなまちを支える道路として、約10年で全線開通(550km)を実現しました。

全線開通から1年経過した交通状況および開通効果をとりとめましたので、お知らせします。

■高規格道路ネットワークの形成により、広域交通流動が活性化

- 内陸・沿岸部の断面交通量が **4,800 台～12,900 台増加し、交通流動が活発化**
- 仙台市以南から宮古市間の広域交通は、**約 92%が三陸沿岸道路経由に転換**

■道路の機能分担により、沿線市街地において事故件数が減少

- 宮城県気仙沼市内の幹線道路では、**1ヶ月あたりの事故件数が約 7 割減少**

■沿線における水産業や農畜産業を支援

- 花巻空港と復興支援道路の連携で、**朝どれの生鮮品が昼過ぎには関西に**
- 高規格道路ネットワーク形成で**岩手の鶏肉は工場出荷量が 2 倍近くに増加**

■被災地の賑わい創出、広域周遊観光の促進・活性化

- 道の駅「高田松原」では**移動時間の短縮により、約 6 割が県外からの来訪**
- 浜の駅「松川浦」では**広域からの来訪者が増加し、沿岸と内陸の連携も強化**
- 復興道路等の活用で周遊が活発化し、**教育旅行の人数が約 1.9 倍に増加**

■アクセス性向上や物流効率化により、企業の経済活動を応援

- 青森・岩手・宮城・福島の復興道路等沿線に**新たに工場が 276 件立地**
- 復興支援道路の整備で**釜石港との連携が生まれ、輸送コストが約 50%減少**

<発表記者会> 青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 TEL 022-225-2171 (代表)

道路部 道路計画第一課 課長 かしわ 柏 ひろき 宏樹 (内線 4211)

道路計画第二課 課長 いとう 伊藤 かな 加奈 (内線 4251)

復興道路等の沿線地域の変化を実績データを用いて分析

～IC 周辺地域では人口の定住化と産業・観光の活性化が進展～

「復興道路等の整備による経済波及効果検討ワーキンググループ(座長:東北大学大学院 情報科学研究所 教授 河野 達仁)」※では、復興道路及び復興支援道路の役割と整備効果を定量的に評価するための手法について検討を進めてきました。

このたび、復興道路等の開通前後での人口定住効果・企業誘致効果・観光入込増加効果について、実績データを用いた統計分析を実施したので、その結果をお知らせします。

■約2万人の人口が増加、定住化が促進

- 復興道路等の IC10 分圏内の人口は、IC30 分圏外と比べて**約2万人増加**(2010年と2015年を比較)し、復興道路等沿線で人口定住が進む。
- 復興道路等を利用した生活圏の拡大による、転出抑制に期待。

■約1万2千件の事業所が増加

- 復興道路等の IC10 分圏内の事業所数は、IC30 分圏外と比べて**約1万2千件増加**(2009年と2016年を比較、第二次産業と第三次産業の計)し、復興道路等の IC 周辺に企業集積が進む。

■年間約210万人の観光客数が増加

- 復興道路等の IC10 分圏内の道の駅の入込客数は、IC30 分圏外と比べて**約210万人増加**(2012年と2019年を比較)し、復興道路等を利用した交流人口の拡大に期待。

※復興道路等の整備による経済波及効果検討ワーキンググループ

座長:東北大学大学院 教授 河野達仁

委員:宮古市副市長、陸前高田市副市長、気仙沼市副市長、相馬市建設部長

オブザーバー:(一財)日本みち研究所専務理事、(一財)計量計画研究所研究本部長、

国土交通省東北地方整備局 道路計画第二課長、三陸国道事務所長

【問い合わせ先】

復興道路等の整備による経済波及効果検討ワーキンググループ

事務局:(一財)日本みち研究所、(一財)計量計画研究所

連絡先:(一財)計量計画研究所 交通・社会経済部門 樋野(ひの) 03-3268-9740

(一財)日本みち研究所 みち空間グループ 青山(あおやま)03-5621-3115

復興道路等の **経 済 波 及 効 果**

世代別の人口定住効果の推計

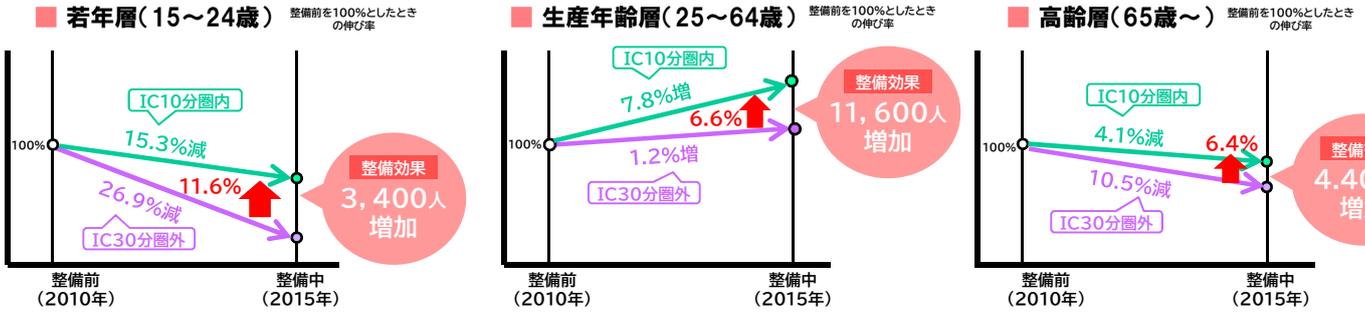
ストック効果 1

人口定住効果

分析内容 復興道路等のIC10分圏内の沿線人口について、沿線3県内（岩手県、宮城県、福島県）のIC30分圏外の地域と比較した場合の、復興道路等の整備前後の増加状況を分析した。

※人口は自然増減を除く。
 ※出典：世代別人口は平成22年、平成27年 国勢調査 地域メッシュ統計
 自然増減の死亡率は令和2年人口動態統計の平成27年値

- IC10分圏内 復興道路等から近い地域
- IC30分圏外 復興道路等から遠い地域



➡ IC10分圏内の定住人口は 全世代合計で 約2万人増加

産業別の企業誘致効果の推計

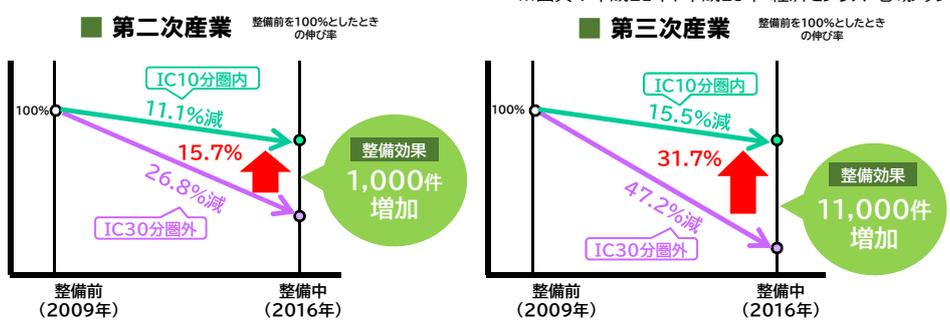
ストック効果 2

企業誘致効果

分析内容 復興道路等のIC10分圏内の事業所数について、沿線3県内（岩手県、宮城県、福島県）のIC30分圏外の地域と比較した場合の、復興道路等の整備前後の増加状況を分析した。

※出典：平成21年、平成28年 経済センサス 地域メッシュ統計

- IC10分圏内 復興道路等から近い地域
- IC30分圏外 復興道路等から遠い地域



➡ IC10分圏内の事業所数は 第二次産業+第三次産業で 約1万2千件増加

道の駅の観光入込増加効果の推計

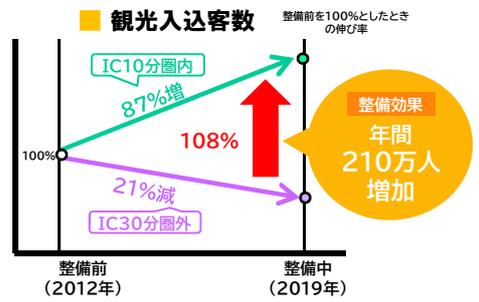
ストック効果 3

観光入込増加効果

分析内容 復興道路等のIC10分圏内の道の駅の入込数について、沿線3県内（岩手県、宮城県、福島県）のIC30分圏外の道の駅と比較した場合の、復興道路等の整備前後の増加状況を分析した。

※出典：道の駅レジカウントデータ。岩手県は地点別観光入込客数を公表しておらず、レジカウントデータを観光入込客数の代理指標とした。

- IC10分圏内 復興道路等から近い地域
- IC30分圏外 復興道路等から遠い地域



➡ IC10分圏内の観光入込数は 年間 約210万人増加